

『幕張新都心でのIR (統合型リゾート) 導入の可能性』

千葉市長 熊谷 俊人 氏



【幕張の生い立ち】

今日は千葉市として行ってきたIRの導入可能性調査やIRをめぐる問題についてお話しするが、千葉市として重要なのは“IRありき”ではなく、幕張新都心ならではの充実策を検討していく中で“IRも選択肢の中に入ってくる”、というのが私たちの考え方だということをはじめに申し上げておきたい。

幕張新都心のコンセプトは、「食」、「住」、「学」、「遊」の複合機能が集積した未来型の業務都市だ。幕張新都心は、もともとは千葉県企業庁が開発してきた街であり、千葉市の中でありながら少し性格の異なる街だった。幕張新都心には大手企業等が進出してきたが、企業と千葉市の交流はほとんどなかった。そこで、私が市長就任後、幕張新都心の企業を訪問し、街に求めているものについて意見交換をするようになり、市の施策に活かされるようになった。

幕張新都心の立地特性を改めて考えると、成田と東京都心、羽田の中間に位置しており、両空港にアクセスするには大変便利である。高速道路や鉄道が整備され、幕張メッセを中心にホテル、大型ショッピングセンターもあり、さらにスタジアムも海も日本庭園もあるということで、国際的な拠点として求められる様々な資源が集積している。MICEという言葉が今般盛んに使われているが、MICEを意識してつくられた場所こそが、この幕張新都心だと思う。

【MICEの誘致】

御存じの方も多いと思うが、改めてMICEのお話をする。MICEの「M」はMeeting、これは企業等が主催する会議だ。「I」がIncentive tour、企業が従業員等を表彰する目的で実施する報奨旅行で、大規模な企業で行われている。「C」はConventionで、その名のとおり国際団体・学会等

が主催する総会、国際会議等だ。「E」がExhibition/Eventで、国際展示会や見本市、また文化・スポーツイベントだ。これらを誘致していくことは経済波及効果が極めて高いので、非常に重要な戦略として経済産業施策の中に位置付けられている。

MICEには、グローバルな企業や学術団体の関係者や家族が世界各地から訪れるので、大型の団体となる。基本的に経費は組織持ちのところが多いため、1人当たりの投下金額が多い。企業の負担により長期宿泊や質の高い宿泊が行われ、また様々な会議・懇親会等で一定の支出が認められる。また、参加者は発信力の高い方々、情報を持っている方々が集まるので、ビジネスや研究環境の向上にもつながっていき、都市の競争力が上がってくる。プロモーション効果も高く、都市の国際的なブランドを高めていくための起爆剤にもなり得るので、日本としてMICEに力を入れていくということになる。

MICEをやるためには“箱”がなければできないが、私たちには日本で初めてのMICEを意識した“箱”、すなわち幕張メッセを持っているので、これを中心にいかに経済波及効果の高いイベントを開催し、人々を幕張新都心や千葉市に集めていくかということが、戦略上重要であると思う。



MICE誘致のための態勢づくりだが、千葉市には「ちば国際コンベンションビューロー」というMICE実施の専門機関が存在している。私たちはここと協力するほか、国際的な学会での影響力を持つ千葉大や、放射線医学総合研究所と連携し、戦略を積み重ねてきた。

開催支援に関しては、インフォメーションデスクを設置したり、開催会場に悩んでいらっしゃる団体の事前視察を積極的に受け入れたり、会場の運営のコンサルティングを行う。例えば、国際会議を開催するにあたり、地元の子どもたちと交流したいという要望があったときに橋渡しをしたり、通訳のボランティアでは神田外語大と組むといった千葉市ならではのユニークなメニューを提供している。また財政支援に関しては、平成24年度から県・市共同で国際会議の開催にあたっての最大2,000万円の補助金制度をつくった。



国際会議誘致の成功例としては、昨年開催した「国際キワニス年次総会」が挙げられる。「キワニス」とは、ロータリー、ライオンズクラブとともに世界三大奉仕クラブの一つで、アジアで初めての世界大会を幕張新都心で開催した。千葉市にとって本格的な国際会議の誘致という意味では、「キワニス」の誘致は大きかった。世界各国から3,000人弱の方々がお越しになり、経済波及効果は7.8億円だった。MICE誘致に向けた模範的な活動ということで、平成25年度の「日本政府観光局国際会議誘致・開催貢献賞」を受賞している。こうした取り組みが評価され、千葉市は国の“グローバルMICE強化都市”に選定された。第1期指定都市に選定されたのは、東京、横浜、京都、神戸、大阪、名古屋といった日本を代表する都市だ。そういう都市と肩を並べて、私たちも頑張っていかなければいけないと思っている。

【幕張新都心の魅力】

幕張の魅力の一つは、日本で一番長い人工海浜

だ。首都に近い場所にこれだけ本格的なビーチがあるのは世界でも非常に珍しく、都市型ビーチの可能性があるということになる。普通の格好でビーチを見ながら、都市型のライフスタイルを楽しむことができる。日本で唯一のビル群の中に映えるビーチであり、外国人が大好きな富士山を東京湾の海越しに眺めることができるという極めて珍しい、千葉が誇る風景だと思っている。しかしながらビーチをこれまではあまりPRしてこなかったため、千葉市に砂浜があることは県外の人にはほとんど知られていない。今後は、稲毛・検見川・幕張の浜の中で道路が一番近く、アクセスの良い検見川の浜をPRしていこうと考えている。



第一弾として、ヨットハーバーの隣に民間資本を入れ整備している。来年3月にはビーチサイドにレストランやカフェ、結婚式場などがオープン予定だ。ビーチと都市の親和性を、まずここから見せていけるのではないかと考えている。

この海辺ならではのイベントということで、5月に「レッドブル・エアレース千葉」が開催された。これの何が重要だったかということ、千葉市に砂浜があり、これだけ魅力的な空間があることを全世界に発信できたことだ。千葉大会は歴代最多の入場者数を記録し、TVで世界1億人以上が、千葉市を風景付きで長時間見たことになる。試算では、経済波及効果は70億円と言われている。

さらに、オリンピックのフェンシング・レスリング・テコンドーの3競技の幕張メッセでの開催が正式に承認された。幕張新都心は、まだキャッチアップしきれていない部分があったので、海外の方々を迎え入れる態勢整備を2020年までに進めることが、決して2021年以降無駄にはならない。オリンピックの助けを借りて、やらなければならないことを、求心力を持ちながら進めていく良いきっかけになったと思っている。

【IRについて】

幕張が、これからも様々な動きが出てくる場所だということを御理解いただけたと思う。そのような中で、最後にIRというものが出てくる。IRとは、Integrated Resort、統合型リゾートと言

われている。2000年代中頃に、シンガポールでカジノが合法化され、そのときに「ラスベガス・サンズ」がプレゼンテーションでこの言葉を使っただから、カジノを含む統合型リゾートのことをIRと呼ぶようになった。国のIR推進法案では、「特定複合観光施設」として「カジノ施設及び会議場施設、レクリエーション施設、展示施設、宿泊施設、その他の観光の振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設であって、民間事業者が設置及び運営をするもの」と定義されている。



国の動向だが、IRの法案が議員立法で提出されているものの、実際にはなかなか進んでいない。IRの問題は国民の中でも評価が分かれるものであり、こうしたものを推進するには、政府・政権として相当な覚悟が必要だと思う。議員立法に積極的な方々はすぐにも通ると言うが、そんなに政治環境は甘くないと思っている。よって、長いスパンでの議論が必要だ。その中で、IRが実現した場合に、私たち千葉県そして千葉市はどのように動くべきか、事前に様々な所で検討を深めておく必要があると認識している。

千葉市の場合、市議会の方々が大変研究熱心で、IR誘致に関する要望書や誘致に向けた決議もなされている。統合型リゾートは、観光や地域経済の振興に寄与するとともに、財政の健全化に資するものであることが期待されている。

地元経済界の動向だが、平成24年に幕張新都心に立地する企業を中心に、「幕張新都心MICE・IR推進を考える会」が発足している。翌年には、「幕張新都心の魅力向上に関する要望書」の中で、MICE・IR施策の立案と具体的推進について提言をいただいている。そして昨年7月2回目の「幕張新都心の魅力向上に関する要望書」では、IR誘致を早急に意思決定することを千葉県・千葉

市に対して求めている。

【IR導入の可能性調査】

このIRについては、まず多くの賛否を伴う問題であるということ、そして慎重な研究と議論が必要であるとの認識を持っている。幕張新都心におけるIRの導入可能性について整理しておくべきだということで、昨年度に予算を計上し、調査を実施した。

調査内容としては、まずIR導入の可能性を探るために、想定されるパターンを出し、その場合の影響や経済波及効果がどの程度あるのか、そしてそれに対する負の側面、リスクと言われているものに対してどういう対応があるのかということをおこなって調査、整理した。

想定しているパターンが二つあり、一つが既存施設を最大限活用するパターンだ。幕張新都心はもともとコンベンションもあるし、ホテルも商業施設も全部整っているのだから、既存施設を生かした形でのIRの場合だ。もう一つが、シンガポールのように、一から相当規模の開発を行う大型のIRだ。

既存施設活用型は、スイスの「グランド・カジノ・ベルン」をイメージした調査になるが、これは3,000㎡規模のカジノと200室程度の客室を要する高級ホテルを新設する形で、延床面積は31,000㎡程度となる。もう一つは、御存じの「マリーナ・ベイ・サンズ」だ。これはカジノが15,000㎡、大型高級ホテル2,500室、展示場も大規模なものをつくり、会議場・高級ショッピングモール・劇場、全てオールインワンでつくってしまうパターンだ。この2パターンについて挙げている。



経済効果は、既存施設を活用した場合は約1,500億円、新規開発型が約4,800億円と試算している。建物を造るにあたっての経済波及効果と、その後の人が集まることによる効果、それから従業員が働くことによる効果等、開業前と開業後の二つのパターンの経済波及効果がある。既存施設を活用した場合には、開業後に約1,260億円、新規開発だと約3,000億円だ。もう一つ、カジノだから税を徴収するので、税収効果が期待される。その税の効果は、既

存施設活用型だと220億円ほど、新規開発型だと360億円ほどと試算している。雇用の創出は、既存施設活用型だと10,000人、新規開発型だと25,000人という分析になっている。もしカジノを含んだIRを行う場合には、犯罪リスク、ギャンブル依存症、青少年への悪影響、周辺環境悪化への影響、こういったものについて整理し、検討していかなければいけないと思っている。

カジノに関しては、国による厳格な免許制度を導入する必要があるだろう。免許税を徴収し、それをカジノを管理する運営費に充当する。このような社会的コストの分析と対策については、シンガポールでは相当な議論を経た上でやってきているので、それを軸に考えていくのが妥当だ。カジノに入場する際にはどこの国でも本人確認を実施しているが、他にも監視体制の強化策としてビデオカメラの設置、不正利用者リストの保有という形で、不正行為を防止するための対策がとられている。そしてマネーロンダリングの問題だが、恐らく一番危惧すべき問題だと思う。犯罪やギャンブル依存症といったものについては、一定程度の対策が可能だ。ギャンブル依存症に関しては、今でも千葉市は公営ギャンブルである競輪をやっているのだから、同様の対応が可能だ。ただし、マネーロンダリングの部分だけは、相当な意識を持っていなければならない。私も以前にIRについて意欲的な方々とシンガポールに行き、ちょっとだけカジノを楽しんだが、換金するときにゼロを1個間違えて多目にやってしまった。1万円のつもりが10万円チェックに交換すると申し込んだら、私のパスポートを照会した瞬間にエラーが発生した。パスポートから政府関係者だという情報が出て、マネーロンダリング等様々な可能性もあるのでエラーになったようだ。まさに自分自身が実験台となった形だ。

予防的措置だが、外国の方は別として自国人がカジノ場に入る場合には、シンガポールでは100シンガポールドルを徴収している。日本円にして約8,000円程度だ。日本の場合には、ギャンブル依存症対策として1万円ぐらい徴収すれば一般の日本人は入らないのではないかと。一つの抑止策として議論されている方法だ。他にも、家族から申告があればその人は入れないようにしてしまうとか、依存症対策としてカジノ税を利用して治療センターを作ること等が議論されている。周辺環境

に関しては、これまで以上の強化措置を行う必要がある。地域の雰囲気や壊さないよう、住宅地区との相当な距離を置く。他には駐車場対策、周辺の渋滞対策等様々なものがあるが、運営事業者から一定程度の金額を取り、地域対策に充てるのが現実的だろうと思っている。

社会的なリスクは、一つ一つ想定されるリスクについて各国の状況を踏まえながら、国としても議論していくことになるし、もし仮に私たちがIRについて真剣に導入に向けて動いていく流れになれば、住民の皆さん方や懸念する方々が納得するだけの対策について、積み重ねていく必要があるだろうと認識している。



IRの問題については、市民の理解や合意を得る努力をしっかりと積み重ねていながら、IRとはどういうものなのか、実態を正しく理解していただく。「絶対推進するぞ」という人と、「絶対に聞く耳も持たない」という反対の人たちが議論してもなかなか難しい問題があるので、ロジカルなデータとしっかりとしたファクトをベースに議論していく土壌を、私たち行政が率先して提供していかなければいけないと思っている。

また、幕張新都心という日本の中でも極めて特殊な街、そして可能性を秘めた街の中で、今後我々はどのような立ち位置でやっていくべきか、千葉市や千葉県にどのような恩恵をもたらすのか。それらについて理解していくためには、先ほど申し上げたとおりIRが先にありきではなく、MICEなどの幕張新都心ならではの戦略について市民、県民の合意と理解を広めていきたい。国からグローバルMICE都市に選定されたことは、私たち千葉市が幕張新都心において目指すべき方向性を、より多く市民やメディアなどを通して伝えていかなければいけないと思っている。

(文責 事務局)